FOCUS!
文学部
Faculty of Letters

特集
Special feature

Faculty of Letters

時代を超えた人間と社会のあり方を探究

領域を超えた深い学びと複眼的思考

文学部の学びは多様です。現代に特有の社会現象を考察することもできれば、人間と社会のあり方を、歴史を遡って考えることもできます。学生は自分の選んだ研究課題に応じて、緻密な文献講読・調査から学外のフィールドワークに至るまで、さまざまな問題解決の方法を学んでいます。

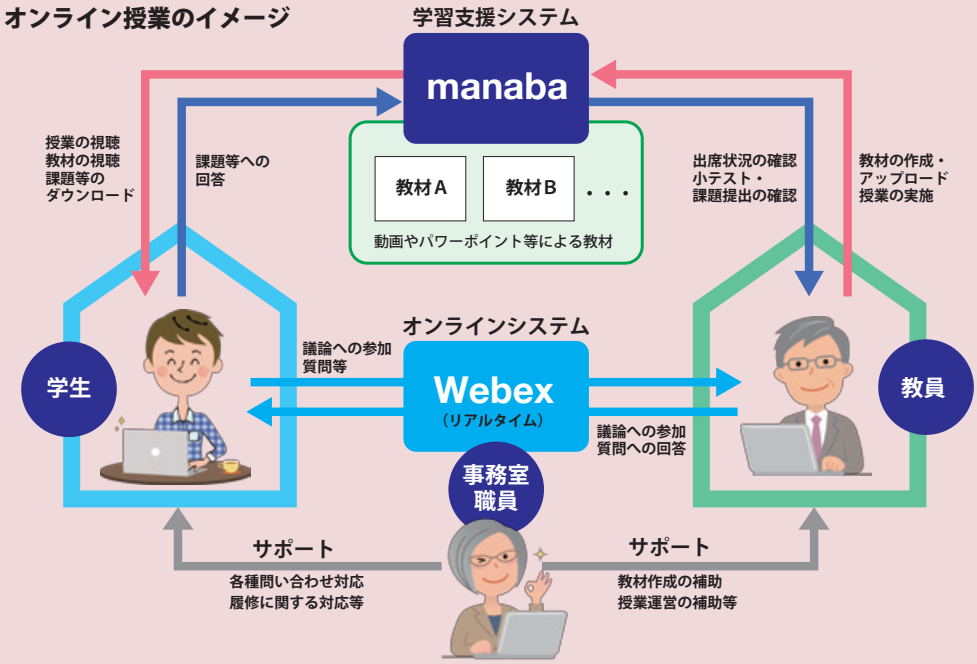
専門性と幅広い教養を身につけ コミュニケーション力と実践力を養う

文学部の学生は、国文学・英語文学文化・ドイツ語文学文化・フランス語文学文化・中国言語文化・日本史学・東洋史学・西洋史学・哲学・社会学・社会情報学・教育学・心理学の13専攻のいずれかに所属し、幅広い教養と専門分野の知見を身につけています。

文学部の学びの特徴の一つは、きめ細やかな深い学びです。学生は基礎演習や専門演習などの少人数のゼミに所属して専門分野の研究能力を磨きます。また、他専攻の科目の中からも必要に応じて興味・関心のある授業を選んで学ぶことで、多彩な教養を身につけ、複眼的思考を養います。現在７００に迫る専門科目のほぼ半数が、専攻の枠を越えて履修可能となっています。徹底的にことばで思考を鍛えるのも文学部の特徴と言えます。ことばを通して、考える力、書く力、調べる力、想像する力、他者の意見を受け入れ自分の意見を主張する力といった、社会生活の根本となる力を養います。

こうして培った力と多様な学びによる教養に支えられた専門知を持つことで、現代社会の急激な変化や多様性に対応できる柔軟さを備えた人材として、社会に羽ばたく準備を整えます。文学での学びの成果は97％を超える高い就職率にも表れています。

またＩＣＴ技術の進化やグローバル化により、領域を超えたコミュニケーション能力や独創的な発想を具体化できる行動力がますます重要になっています。このトレンドを見据えて、今年度から始まったのが「実践的教養演習」（P04）です。出版、イベント企画や動画制作を通じて、より主体的に行動し、実践する人材の育成にも力を入れています。



新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにオンライン授業を実施中

本学は新型コロナウイルス感染症対策として、前期（春学期）期間の授業をオンライン授業で実施中です。文学部では授業支援システム「manaba」を基本とし、各教員が工夫してオンライン授業を実施しています。その一例をご紹介します。

【水曜1限　現代論理学　青木滋之教授】

①教員が事前に資料（音声付きのパワーポイントや動画）を作成し「manaba」に掲示。

②学生は授業の時間に「manaba」から資料を閲覧し、自己学習を実施。質問はWeb会議システム「Webex」を利用してリアルタイムに教員に問い合わせることができます。

③教員は自宅や研究室のパソコンで授業の実施状況をモニターしています。質問が入った場合は「Webex」で直接会話をします。

④資料には小テストが設定されており、学生は授業時間内にそれに答えることで出席扱いとなります。また宿題も出され、期限までに取り組み「manaba」から提出します。

この授業のように、資料閲覧による自己学習に加え、リアルタイムに質問を受け付けることで、学生と教員が双方向で会話をし、理解を深めることができます。またオンライン授業であっても通常の時間割に従って実施することで、学生が規則正しい生活時間を維持できるようにしています。

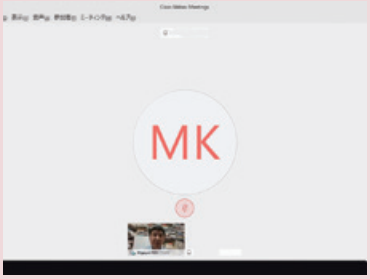
ほかにも、すべての授業をWebexを使って同時双方向型で実施している科目もありますし、履修者の多い規模の大きな授業では、資料閲覧を主に行い、質問は記入方式で受け付け、後で教員が個々に返信する方式を取っているものも多くあります。

特に文学部に入学した全1年生が学ぶ「大学生の基礎」では、対面授業同様に行われるゲスト講師のレクチャーをビデオに収め、学生はそれを視聴し、ショートレポートを提出するという形式です。

事務室職員のサポートを得ながら、それぞれの教員が授業の内容に適した方式を選択し、学生の皆さんの学びを止めないように努力しています。

「現代論理学」の授業で学生と対話する青木教授

学生側の画面には教員の顔が表示されています

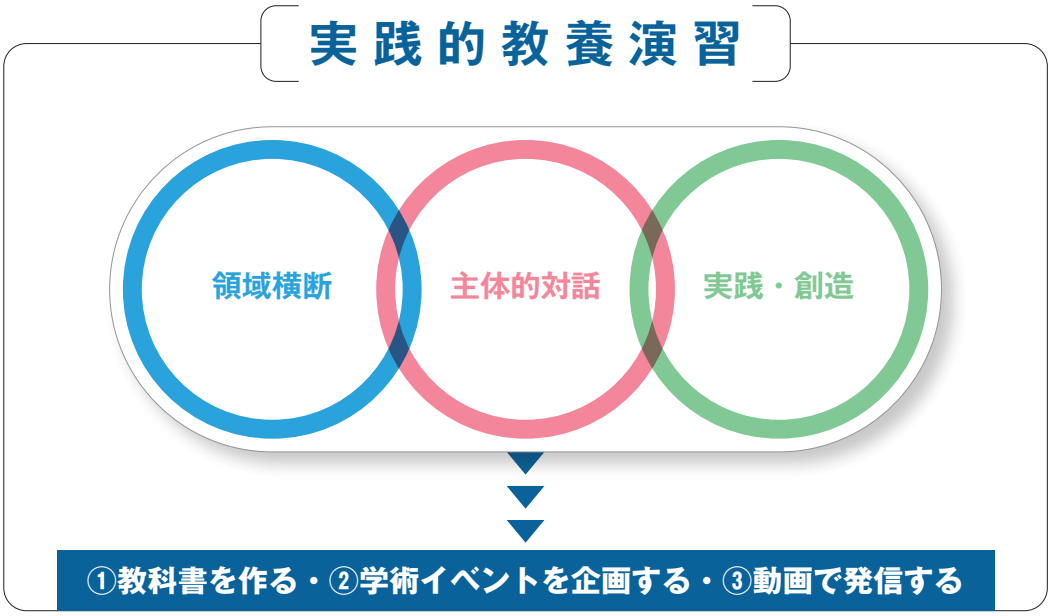


プライバシー保護のため、学生は顔を出さない設定を推奨しています

資料を画面共有しながらの対話も可能です

1 実践的教養演習

自分たちで学びをカタチに！今年度から始まった新しい授業



1 専門の枠を越えて履修できるアクティブ・ラーニング

先生から教わったことに基づいた学習、という高校までの授業のイメージを覆すのが「実践的教養演習」です。大学での学びは、座学で学んだ基礎知識を元に、それぞれの専門分野で自ら問題を発見し、独自の答えを導くものです。また、参加型のいわゆるアクティブ・ラーニングの比重も高まり、自発的な参加によりさまざまなアウトプットの手法を修得することができます。

今年度から始まった「実践的教養演習」は、前述したような従来のアクティブ・ラーニングをさらに一歩進め、少人数のグループで同一の成果物を創造することで、専門領域を超えたコミュニケーション能力やクリエイティブ・スキルを身につけます。また、一年間の学びを通じて得た多彩な経験と自信は、将来の就職にもつながることが期待できます。

2 実践的教養演習の3つの柱

■領域横断したい人へ

文学部の学生はもちろん、他学部の学生も履修が可能です。実際に今年度は法学部、経済学部、商学部、総合政策学部、国際経営学部の学生が履修中。異なる専門領域を学ぶ学生が集まることで同じテーマをさまざまな角度から見ることができ、刺激的な議論が展開されています。

■主体的に対話したい人へ

参加者は少人数のグループに分かれて課題に取り組みます。1年次から4年次まで経験値の異なる学生が一緒に学ぶため、主体的に参加すればするほど、思考力や表現力が鍛えられます。互いの意見の良いところを取り入れながら優れた成果を出す協働性を伸ばすチャンスでもあります。

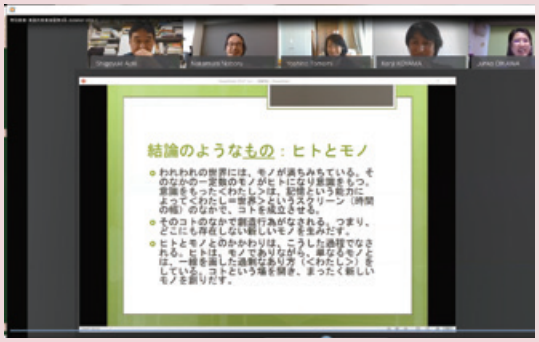
■実践し創造したい人へ

「実践的教養演習」では、出版部門、イベント部門、動画制作部門の三つに分かれて協働作業に取り組みます。テーマについて学び、理解したことを教科書出版、学術イベントの企画、動画発信という形でまとめ上げます。多様な学びを通して、さらに一歩進んだ実践的技術を身につけることができる授業なのです。

FOCUS!

オンライン授業でも活発に議論しながら3つの部門での活動がスタート

今年度は「ヒトとモノ」という共通テーマのもと、多摩キャンパスの6つの学部から履修した学生が学んでいます。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてリアルタイムのオンライン授業で進めていますが、学生は皆意欲的で、毎回活発な意見交換が展開しています。出版、イベント、動画制作の各部門を教員2名が担当するほか、ゲストスピーカーとしてプロの編集者、脚本家、映画監督、文化資源調査の専門家などを招いてお話を伺いながら、必要な技術とものの見方を身につけていきます。限られた環境のなかで、いかに協力して目的を達成するか、今まさに学生が知恵を絞り、全力で取り組んでいます。



「実践的教養演習」の授業画面
画面上は、さまざまな専攻から集っている担当教員

履修者の声 1

出版部門

「モノ作り」に惹かれて

佐々木 鞠華（ささき まりか）
文学部人文社会学科教育学専攻1年
中央大学附属高校（東京都）出身

この授業のキーワードである「領域横断性」に惹かれ、学部・専攻の垣根を越えてモノを作るという普通の授業形態とは異なる点に興味が湧き、履修を決めました。履修している多くの先輩方と議論したり、ゲストスピーカーのお話を伺ったりすることから、自分に足りない知識や新しいものの見方を学べることを楽しみにしています。

私は3つの「モノ作り」のうち、出版部門を選びました。学生だけでなく一般の方にも読んでもらえるような教科書を作りたい、そのためにも常に読者のニーズを意識していきたいと思います。

この授業を通して、ゼロから1冊の本を作り上げるという達成感を得るだけでなく、「企画―準備―実施―調整―完成」という、事業やプロジェクトの一連のノウハウを会得する学びは、今後の学生生活や社会人生活で経験するさまざまな事業・プロジェクトに応用することができると思います。

履修者の声 2

イベント部門

社会で必要になる自ら考え、行動する力

近藤 祐日（こんどう ゆうひ）
経済学部国際経済学科3年
Taradale High School
（ニュージーランド）出身

この授業を履修した理由は、「実践的教養演習」という新しいタイプの演習授業に惹かれたからです。1、2年次で習得した基礎をもとに、参加型の授業を受けたいと思っていました。グローバルな人材が求められる世の中で、消極的な姿勢では何もなし得ることはできないと考え、自分を変えるという目的で履修しました。また、この授業は、他学部の人たちと交流を深めることができるので、同じ知識を持っている人たちだけでなく、違う分野の知識を持つ人たちと企画を進めることができるのが最大の魅力だと思います。

私がイベント部門を選択した理由は、出版部門や動画制作部門と比べて人の反応を直に感じることができると思ったからです。明確な内容はまだ決めていませんが、私は参加型のイベントを催したいと考えています。自ら体験して楽しみ、共有したくなるということをコンセプトに、これから企画を進めていきたいです。

この実践的な授業を受けていくにあたって、自分の考えをまとめて伝えること、皆と協力して成果を出す協働性、この二つを意識しながら、社会に出るための力を養いたいです。

履修者の声 3

動画制作部門

人の心を動かす動画制作をめざして

佐々木 愛夏（ささき あいか）
文学部人文社会学科
フランス語文学文化専攻2年
群馬県立太田女子高校出身

高校生のときに広告代理店への企業訪問をしてから、人の心を動かすような映像やモノに興味を抱いていました。また、大学では受け身の学びだけでなく、自発的な学びがしたいと考えていました。この授業では、聞いて学ぶだけでなく、自分自身で本の出版や動画制作といったモノ作りができると知り、受講を決めました。

この部門では、動画制作を行います。中央大学を卒業された映画監督やシナリオライターの方々を講師として招き、動画発信技術を学び、「よりよい動画とは何か」も考えていきます。動画を作るための基礎となる法律や制作工程、企画の立て方を一から学び、人に伝える動画、人に伝わる動画をめざします。皆で積極的に意見を出し合い、個々の考えや思いが反映された動画を作りたいと考えています。

私はこの授業で、主体性を身につけたいと思っています。自分の意見や考えをしっかりと持ち、臆することなく伝え、向上心を常に持って臨みたいです。動画制作部門の11人全員で、人の心に響く動画が作れるようがんばります。

文学部生の４年間

新型コロナウイルス感染症の拡大により今年度は中止になってしまった行事もありますが、文学部生の４年間の学びの概要をご紹介します。

入学

専門分野へ進むための基礎を学びます。自主性が求められる大学の学びに少しずつ慣れていきます。

1年次

基礎から応用へ学びもさらに深化します。それぞれの関心に従って、海外や学外で学ぶ機会も増えてきます。

2年次

基礎

少人数の授業で多彩な科目を学びます。積極的に議論する参加型の授業もあります

深化

各専攻ごとに共同研究室があり、専門図書を揃え日々の学びをサポートしています

入学式
文学部には毎年約 1000 名が入学します

新入生ガイダンス
入学式後に大学での学びについてガイダンスを受けます

フィールドワーク
学外で専門的な学びを深化させます

短期留学・長期留学
さまざまな制度を利用して毎年多くの文学部生が留学しています

文学部生が学ぶ3号館
文学部生にとっては3号館が学びの主な舞台です

奨学金
学生をサポートするさまざまな奨学金を用意しています

アカデミックラウンジ
学内での留学生との交流も盛んです

海外での学び
海外で学ぶプログラムにも参加できます

Campus Life

充実した環境が４年間の学びを支えています

緑に恵まれた多摩キャンパス
広大なキャンパスの風景に癒されます

ヒルトップ（学生食堂）
学食は安くてメニューも豊富です！

白門祭（大学祭）
毎年秋に開催。イベントや出店で大賑わいです！

駅から3号館までの風景
この道を通って通学します。冬の夜にはライトアップがきれいです

FOCUS!
Faculty of Letters

少人数のきめ細かな
学びを活かして幅広い教養と
専門分野を究めます！

個人のテーマに基づき、4年間の集大成として卒業論文や卒業研究に取り組みます。それぞれの道へ羽ばたく準備をします。

いよいよゼミが始まります。個人のテーマを設定するとともにグループワークのスキルも学びます※。

※専攻によっては3年次もゼミではないところがあります

卒業 ◀ 4年次 ◀ 3年次

卒業論文

4年次は個人の研究に集中して卒業論文（卒業研究）を執筆。学びの成果を形にします

ゼミ

専門分野の研究を深めるゼミ。研究に打ち込む2年間は一生の財産になります

卒業式
各界で活躍する著名人を多数送り出しています！

教員への道も
教員志望者が多いことも文学部の特徴です

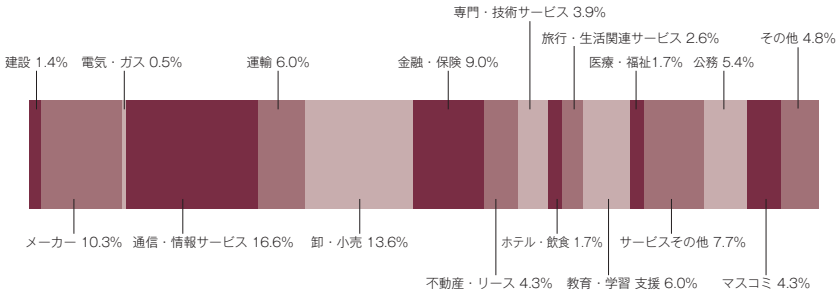
ゼミ合宿
短期間でも寝食をともにして議論することで研究を磨きます

ゼミ旅行
研究と交流を兼ねた旅行に出かけることもあります

就職率97%
学んだ成果に自信をもって、それぞれの道に進みます

ディベート大会
時間を忘れてとことん議論に集中します

DATA 文学部生（2019年度卒業）の就職状況と傾向

文学部卒業生の就職先はさまざまな業種にわたっています。なかでも主要な業種は、●通信・情報サービス●卸・小売●メーカー●金融・保険となっています。また、他学部に比べて教育・学習支援業に就職する学生が多いのも特徴です。文学部で学んだ「知識」と「教養」、「課題へのアプローチ・スキル」は社会で高く評価され、2019年度の就職率は97%を超えています。

2019年度 文学部卒業生 業種別就職状況